CLOSE UP!

スマートフォンを用いた脳卒中診療

脳卒中は適切な診断・治療までの時間が早ければ早いほど予後が良くなる疾患です。正確な診断・適切な治療までの時間短縮に貢献しているスマートフォンを用いた脳卒中診療をご紹介します。

遠隔医療について

医療過疎地における専門医不足にも貢献できる技術として、遠隔医療（Telemedicine）というインターネット通信、衛星通信などの通信技術を活用した医療行為がありますが、脳卒中急性期診療では脳卒中に特化した遠隔医療（Telestroke）が重要となります。脳卒中に特化した遠隔医療ではより迅速な情報のやりとりが必要とされます。

スマートフォンを用いた脳卒中診療について

徳島大学病院は2012年に国公立大学で初めてスマートフォンを使った脳卒中診療を取り入れました。現在は1700件を超える送信実績があり、徳島や近隣地域の脳卒中診療に大きく貢献しています。脳卒中の治療に最も大切なのは来院から治療開始までの時間短縮です。スマートフォンを使えば徳島大学病院の脳卒中チームが患者の情報を瞬時に共有することができ、従来では来院して電子カルテを開かなければできなかったことがどこに居てもできるようになりました。

実際の診療では夜間や休日はどうしても人手が足りなくなり、指導医が不在という状況になることがあります。このような状況では、診療科長など上級医に連絡し、指示をあおぐことになります。従来は相談する際に電話で状況を説明していたため、情報を伝えることに時間がかかったり、誤認識につながる恐れがあったりしましたが、スマートフォンを使った脳卒中診療を導入することによって、医用画像、例えばMRI、CT、血管撮影等の画像をスマートフォンで、電子カルテと同じ解像度で鮮明に見ることができるようになり、迅速で正確な情報伝達と診断ができるようになりました。また、リアルタイムの手術動画がスマートフォンで確認できるため、経験豊富な専門医がその場に居なくても指示することができます。スマートフォンを用いた診療を始めたことにより、患者さんの治療開始までにかかる時間が以前より1時間短縮されました。

■説明は、
里見 淳一郎
（さとみ・じゅんいちろう）
脳神経外科 准教授

患者さんへ一言

徳島大学病院では、脳卒中に対する迅速な診断と治療に努めています。これからも多くの患者さんを受け入れていきますので、よろしくお願いします。

JOIN system（徳島大学病院脳卒中センター）遠隔画像診療治療補助システム

スマートフォンを用いた新しい医療ネットワーク
（2012年4月導入後1700例以上の送信）

「病院の外」にいても**「病院の中」**にいるように、画像の供覧、相談（Tweet）が可能。迅速な診断、的確な治療決定に貢献している。

一斉送信情報共有